

令和3年度（対象：令和2年度） 取組の点検・評価票

1 具体的取組計画

基本方針 1 自分を愛し、人を愛し、郷土を愛する教育の推進

愛の1 人権教育の推進

番号	主な取組	①人権教育の推進	実施期間					点検・評価			
	取組項目	取組内容【数値目標等】	28	29	30	元	2	実績と成果	経費	課題	評価
1	人権教育研修会の開催 【人権教育室】	各種団体、企業、学校関係者、保護者を対象に人権教育を推進するための研修会を開催する。 ・研修会開催件数 33回／年						人権教育推進委員会の開催回数 1回（R1：2回） 地域住民対象研修会の開催回数 16回（R1：20回） （77千円） 講座の開催回数 24回（R1：39回） ・幼・保・小・中・高等学校人権教育主任研修会 1回（R1：1回） ・企業・事業所人権教育研修会 1回（R1：1回） ・やない教育の日（学校人権教育の部） 中止（R1：5回） 代替として、各学校を訪問し、人権について研修を行った。 ・保護者対象人権教育研修会 12回（R1：15回） ・地区別及び職場等人権研修会 10回（R1：17回） （140千円） ●幅広く研修会を行うことにより、一人ひとりの人権意識の向上を図ることができた。	千円 217 （R1 543）	各地区公民館との連携を図り、推進委員の資質向上と地域リーダーの育成に向けて、研修内容を検討する必要がある。 幅広い人権課題の解決に向け、専門性の高い知識を持った講師を招き研修を開催する必要がある。	A （R1：A）

番号	主な取組	②相談・推進体制の充実	実施期間					点検・評価			
	取組項目	取組内容【数値目標等】	28	29	30	元	2	実績と成果	経費	課題	評価
2	指導者の養成及び資質向上のための研修会開催 【人権教育室】	人権教育を推進する立場にある者を対象とした研修会を開催する。 ・研修会開催件数 5回/年						運動団体の研修会や大会への参加 ・指導者研修回数 8回（R1：9回） ・運動団体等参加人数 20人（R1：31人） ●各種研修会への参加により、人権に係る課題を共有し、解決策を探ることができた。	千円 100 （R1 37）	各運動団体の取組や方向性を把握するための研修会や大会への参加と、情報収集に引き続き努めていく必要がある。	B （R1：B）

愛の2 生涯学習の推進

番号	主な取組	①普及啓発活動の推進	実施期間					点検・評価			
	取組項目	取組内容【数値目標等】	28	29	30	元	2	実績と成果	経費	課題	評価
3	学習情報の提供	年1回のグループ・サークルを紹介する冊子等を作成するとともに、広報やないに						グループ・サークル紹介 ・冊子（市内の文教・スポーツ施設に設置）	千円 14	地域の特色を生かした講座の開催に努めているが、	B

	【生涯・スポーツ】	よる情報提供を行う。						・ホームページ（随時更新） - 公民館教室の周知 ・広報やない（原則月１回発行） ・各公民館だより（原則月１回発行） ・ホームページ（随時更新） ●各グループ・サークルの情報を集約し、情報提供することで、利用者の利便性の向上を図ることができた。	(R1 18)	費用等の条件に適う講師の確保に課題がある。 各公民館を中心とした生涯学習ネットワークの強化及び公民館主事の人材育成に努める必要がある。	(R1 : B)
--	-----------	------------	--	--	--	--	--	---	---------	--	----------

番号	主な取組	②学習活動の多面的支援と相談体制の充実	実施期間					点検・評価			
	取組項目	取組内容【数値目標等】	28	29	30	元	2	実績と成果	経費	課題	評価
4	しらかべ学遊館との連携 【生涯・スポーツ】	各小中学校としらかべネット等の関係機関との連携を図り、学習活動等の体制の充実に努める。						社会教育指導員３人（4,223千円） ・文化財担当 ・子ども会連合会担当 ・放課後子ども教室担当 ・学遊館展示３回 ・老人大学 実施回数 7回 登録者数 71人 ●展示では、裸島、埋蔵文化財をテーマに企画した。	千円 4, 223 (R1 4,205)	経験の豊かな人材を確保する必要がある。	B (R1 : B)
	蔵書の充実 【図書館】	柳井図書館における生涯学習向けの図書と大島図書館での児童図書の充実を図る。						図書購入状況 柳井図書館 2,805千円 1,560冊(R1 : 2,749千円 1,563冊) 大島図書館 700千円 502冊(R1 : 751千円 522冊) ●ある程度利用者のニーズに合った図書を購入することができた。	千円 3, 505 (R1 3,500)	図書館が手狭なため収納スペースを確保することが困難な状況であり、提供できる資料に量的な制限がある。	B (R1 : B)
	レファレンス・サービスの充実 【図書館】	学習活動の手助けとなるレファレンス・サービス（利用者の問い合わせに応じ、図書の照会や検索を行う業務）の充実に努める。						レファレンスの受付件数 柳井図書館 50件(R1 : 45件) 大島図書館 7件(R1 : 10件) ●依頼のあった相談に適切に対応できた。	千円 —	専門的な問い合わせにも対応できるよう更なる知識の習得に努める必要がある。	B (R1 : B)
	高齢者向け資料の充実 【図書館】	大活字本、録音図書などの導入を図り、高齢者の利用向上に努める。						大活字本の購入 柳井図書館 5冊(R1 : 12冊) 大島図書館 1冊(R1 : 0冊) ●最低限購入することができた。	千円 14 (R1 35)	大活字本は高齢者からの関心も高いが、限られた予算の中で購入するには限度がある。	C (R1 : C)
	複合図書館の環境整備 【図書館】	柳井商業高校跡地への新たな複合図書館の環境整備を進める。						新たな複合図書館の建設に合わせ、図書購入費や図書館移転にかかる費用を、令和４年度以降の実施計画に計上した。	千円 — (R1 —)	新たな複合図書館の建設に合わせ、図書購入費や図書館移転にかかる費用を計上する必要がある。	— (R1 : —)

番号	主な取組	③人材・組織の育成	実施期間					点検・評価			
	取組項目	取組内容【数値目標等】	28	29	30	元	2	実績と成果	経費	課題	評価
5	各種研修会への参加 【生涯・スポーツ】	社会教育主事、公民館主事などが県主催の研修会へ積極的に参加し、資質・能力の向上に努める。						研修会 ・県公民館連合会研修会 2回（R1：2回） ・派遣社会教育主事研修 13回（H30：14回） ・県公民館連合会東部地区公民館職員研修会 1回（R1：1回） ●他地域の公民館関係者との交流により、それぞれの公民館の課題などの情報を共有することができた。	千円 3 （R1 3）	より多くの研修機会を得て交流を深める必要がある。また研修の内容等について、参加できなかった職員にも周知し情報共有を図る必要がある。	B （R1：B）
	公民館各種教室・講座の開催 【生涯・スポーツ】	生涯学習の拠点である公民館等を活用し、必要な学びの場を提供するとともに、組織を育成するための各種教室・講座を開催する。 ・対象：中央及び各地区9公民館						・中央公民館教室講座 開催数 6講座×2期（R1：6講座×2期） ・地区公民館9館講座 開催数 63講座（R1：107講座） 固定受講者も多く、また新規受講者の参加も見られ好評であった。 ●各地区で特色ある講座が開催されており、公民館が生涯学習の拠点として認識されてきた。	千円 201 （R1 318）	地域の特色を生かした講座の開催に努めているが、費用等の条件に適う講師の確保に課題がある。 市民の参加意欲の向上につながる内容とする必要がある。	※C （R1：B）

番号	主な取組	④学習成果発表会の充実	実施期間					点検・評価			
	取組項目	取組内容【数値目標等】	28	29	30	元	2	実績と成果	経費	課題	評価
6	公民館まつり等の開催 【生涯・スポーツ】	公民館の利用団体・自主グループ等の活動の成果を発表する場を提供するために、各地区で公民館まつり等を開催する。						地区公民館まつり ・中央公民館まつり 中止【例年 3月上旬の2日開催】 ・日積ふるさとまつり 中止【例年 12月開催】 ・伊陸公民館まつり 中止【例年 12月開催】 ・新庄ふれあいまつり 中止【例年 11月開催】 ・余田まつり 中止【例年 3月開催】 ・伊保庄公民館まつり 中止【例年 11月開催】 ・阿月ふれあいまつり 中止【例年 11月開催】 ・平郡東地区文化祭 中止【例年 11月開催】 ・平郡西ふれあいの集い 中止【例年 11月開催】 ・大畠公民館文化作品展 10月31日（土）～11月2日（月） ●例年、地元の積極的な企画運営により、発表が定着し、盛り上がりを感じられているが、新型コロナウイルス感染症の影響等により1カ所以外は全て中止となった。	千円 — （R1 100）	地域の特色を生じた企画運営により、子どもから高齢者まで幅広い世代の参加・交流を促進する必要がある。	※D （R1：B）

番号	主な取組	⑤生涯学習推進体制の整備充実	実施期間					点検・評価			
			28	29	30	元	2	実績と成果	経費	課題	評価
7	講演会の実施 【生涯・スポーツ】	山口県立大学等と連携して、サテライトカレッジを実施するとともに、社会教育施設の有効活用を促進する。						サテライトカレッジ ・7月4日開催「国木田独歩とやまぐち」（柳井市共催） 29人（R1：30人（2回合計開催）） ●講演会の内容が市民のニーズに合ったものとなり、参加者の生涯学習意欲の伸長につながった。	千円 19 （R1 —） （県立大負担）	講義分野と参加者の要望のバランスを取り、幅広い分野の講義を行うよう検討する必要がある。	A （R1：A）
	公民館の建設 【生涯・スポーツ】	伊陸公民館の改築及び現公民館跡地の整備を行う。						近年の公民館の建替状況 ・余田公民館 H29年9月供用開始 ・平郡東公民館 H29年9月供用開始 ・日積公民館 H31年4月供用開始 ・伊陸公民館 R2年9月供用開始（60,527千円） ・旧伊陸公民館跡地駐車場整備 R3年度中完成予定（19,500千円） ●地域住民と行政が協議を重ね、要望を取り入れながら設計・建設を行ったことで、地域拠点としての位置づけが高まった。	千円 80,027 （R1 13,992）	老朽化に伴う施設整備を計画的に行う必要がある。また既存施設については、個別施設計画を策定し、長寿命化を検討する必要がある。	A （R1：A）
	公民館の管理運営 【生涯・スポーツ】	公民館の管理運営をソフト・ハードの両面から行う。 ・公民館運営審議会の開催 10回/年 ・公民館運営審議会代表者会議の開催 1回/年 ・施設の運営・維持管理						公民館運営審議会 開催数 10回（中央1回、各館×各1回） 公民館連絡協議会 開催数 1回 公民館長 ・各公民館1人配置 公民館主事 ・中央公民館、大畠公民館を除く各公民館1人配置 ・大畠公民館4人配置 公民館修繕等 10件 新型コロナウイルス対策 ・トイレ手洗いの自動水栓化（中央公民館を除く全地区公民館） 公民館利用者総数 ・中央公民館 910件 7,705人（R1：1,046件 11,067人） ・日積公民館 184件 1,944人（R1:141件 2,415人） ・伊陸公民館 348件 4,394人（R1:449件 5,354人） ・新庄公民館 613件 5,472人（R1:630件 6,930人） ・余田公民館 285件 2,687人（R1:360件 3,853人） ・伊保庄公民館 196件 1,385人（R1:242件 2,223人） ・阿月公民館 136件 1,369人（R1:187件 2,474人） ・平郡東公民館 172件 1,198人（R1:290件 2,521人） ・平郡西公民館 13件 117人（R1:40件 811人） ・大畠公民館 562件 6,541人（R1:656件 8,187人） ●運営審議会や公民館主事の活用により、公民館の利用促進が図られた。	千円 15,477 （R1 14,379）	出張所併任職員の公民館事業への関わりをより強めることで、地域のニーズに合わせた公民館事業の充実を図る必要がある。 また、個別施設計画を策定し、長寿命化等を検討する必要がある。	B （R1：B）

	社会教育（生涯学習）施設の活用及び運営・管理	星の見える丘工房及び文化福祉会館の有効活用と運営管理を行う。 ・天体観測会の実施 5回/年 ・行事、イベントの実施 ・施設の運営・維持管理 ・施設管理者や地元、利用者との協力を努める。						新型コロナウイルス対策 ・トイレ手洗いの自動水栓化（文化福祉会館：繰越明許） 星の見える丘工房 ・使用状況 128件 1,338人（R1：131件 1,447人） ・自主グループ数 2団体（陶芸グループ、竹細工グループ） ・主な主催行事 天体観測会4回 72人（R1：3回 48人） ●天体観測会では、観測だけではなく講座も行っており、行事内容の充実に努めることができた。	千円 674 （R1 686）	特定の団体のみならず、より多くの市民が利用できる事業を実施する必要がある。 個別施設計画を策定し、長寿命化等を検討する必要がある。	B （R1：B）
--	------------------------	--	--	--	--	--	--	--	-----------------------	--	-------------

愛の3 青少年の健全育成

番号	主な取組	①青少年育成センターの充実	実施期間					点検・評価			
	取組項目	取組内容【数値目標等】	28	29	30	元	2	実績と成果	経費	課題	評価
8	街頭補導の実施 【生涯・スポーツ】	青少年の非行を防止するため、少年補導員による街頭補導・あいさつ運動を実施（昼・夜）する。 ・街頭補導 50回/年						青少年相談員1人（1,408千円） 街頭補導 ・少年補導員 90人 巡視回数 40回 青少年健全育成市民会議常任委員会【中止】 青少年問題協議会 1回 ●少年補導員の協力により街頭補導を行うことで、遊技場等の職員と人間関係を構築し、情報交換を行うことに努めた。	千円 1,620 （R1 1,927）	近年は、少年の夜間徘徊等の実態が確認できず、街頭補導の在り方を見直す時期に来ている。	B （R1：B）

番号	主な取組	②青少年を取り巻く環境の整備	実施期間					点検・評価			
	取組項目	取組内容【数値目標等】	28	29	30	元	2	実績と成果	経費	課題	評価
9	中・高生徒指導連絡協議会への参加 【生涯・スポーツ】	青少年に関わる各種団体・関係機関及び学校との連携を図る協議会へ参加する。 ・年3回						中高生徒指導連絡協議会【中止】 ●各学校の抱える問題について、情報の共有や課題への対応について検討が図られた。	千円 —	学校関係者と更なる連携を図っていく必要がある。 令和2年度から年1回開催となる。	※D （R1：C）
	成人祝賀式の開催 【生涯・スポーツ】	新成人からスタッフを公募し、自主運営による成人祝賀式を開催する。 ・出席率80%以上						・開催日時 令和3年1月9日11：00～ ・会場 柳井クルーズホテル ・上記日程・会場で実施予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、翌年度に延期した。	千円 11 （R1 567）	公募スタッフの確保と開催日程の調整が課題である。	※D （R1：B）

愛の4 芸術・文化の振興

番号	主な取組	①文化にふれあう機会の充実	実施期間					点検・評価			
	取組項目	取組内容【数値目標等】	28	29	30	元	2	実績と成果	経費	課題	評価
10	美術展覧会及び生活芸術展覧会の開催	市民文化の向上と美術及び生活芸術の普及・振興を図るため、柳井市美術展覧会、柳井市生活芸術展覧会等を開催する。 ・年間各1回開催						・短詩型文学祭開催（85千円） 6月23日優秀作品発表 俳句部門（投稿数） 31句（R1：106句） 短歌部門（投稿数） 28首（R1：44首）	千円 291 （R1 428）	より多くの市民、特に若年者からの投稿、出品を促進する必要がある。	※C （R1：B）

	【生涯・スポーツ】							詩部門（投稿数） 6 編（R1： 8 編） ・第 53 回市生活芸術展覧会開催【中止】 例年 11 月 3 日を中心に 3 日間開催。 市内の 5 グループの作品を一堂に展示、観賞する事業 ・第 56 回市美術展覧会開催（180 千円） 11 月 14 日（土）～11 月 18 日（水） 出品作品 169 点（R1:200 点） 出品者 144 人（R1:157 人） ・子どものひろば（大畠公民館芸術文化振興事業）（26 千円） 11 月 7 日（土） 図書館まつり内で実施 ●文学祭は、広く広報活動を行うとともに、県内の文学同好会、 大学等へも広く案内を行い周知を図ったが、投稿数が減少した。			
	貸館事業の充実 【サンビーム】	貸館件数の増加に努める。 ・貸館件数 30 回/年						ホール使用の貸館件数 年間 36 件 総使用日数 36 日（R1：58 件 58 日） ●貸館事業としてのリピーターは確保できた。	千円 2 4, 7 2 4 （人件費除く） （R1 58, 303）	音響の良さなどの優れた部分を P R する必要がある。	B （R1: B）

番号	主な取組	②自主的な芸術・文化活動の促進	実施期間					点検・評価			
	取組項目	取組内容【数値目標等】	28	29	30	元	2	実績と成果	経費	課題	評価
11	柳井文化連盟の機能強化 【生涯・スポーツ】	柳井文化連盟を中心とした文化芸術団体等の組織強化を図り、文化芸術の普及・振興を図る。 ・団体間の連絡調整や後援による支援を行う。						文化連盟表彰 個人 2 人・団体 1 団体（R1：個人 4 人） 文化行事後援 4 件（R1：9 件） 理事会 1 回（R1：1 回） 常任理事会 2 回（R1：2 回） 相互交流 ・文化交流会（山口県文化連盟主催）【中止】 ・企業等による助成制度の活用 ●組織強化に努め、文化芸術の普及を図れた。	千円 — （文化連盟負担） （R1 —）	高齢化に伴い団体活動の停滞が予測され、若年層の加入等、活性化策を検討する必要がある。	※C （R1：B）
	自主文化事業の開催 【サンビーム】	サザンセット音楽祭を継続して開催していくとともに、新たな自主文化事業の開催に取り組む。 ・開催回数 2 回/年 ・開館 30 周年記念行事を開催する。【平成 28 年度実施済】 ・スタインウェイを弾く会を開催する。【令和元年度実施】						サザンセット音楽祭・洋楽の部 なし （R1：11 月 10 日（入場者数約 700 人） // 郷土芸能の部・邦楽の部 なし （R1：1 月 19 日（入場者数約 300 人） スタインウェイを弾く会 12 月 13 日（入場者数約 70 人） （R1：12 月 21 日（入場者数約 30 人） ●メディアによる P R のみでなく、今回も出演関係者等による主体的な取組が行われた。 ●新しい試みとして、スタインウェイを弾く会を開催した。	千円 8 7 （R1 646）	サザンセット音楽祭は、近隣の音楽関係者の認知度は高いが、市広報を通して一般市民にも認知してもらう必要がある。 スタインウェイを弾く会は、認知度の向上のため、継続開催による事業の定着を図る必要がある。	B （R1：B）

番号	主な取組	③文化施設の適正な管理運営	実施期間					点検・評価			
	取組項目	取組内容【数値目標等】	28	29	30	元	2	実績と成果	経費	課題	評価
12	施設の適正な管理運営 【生涯・スポーツ】	指定管理者による文化福祉会館及び勤労青少年ホーム等の適正な管理運営と利用促進を図る。						文化福祉会館・勤労青少年ホーム（指定管理施設） ・指定管理料 10,600 千円 ・利用人数 文化福祉会館 1,205 件 20,238 人（R1:1,795 件 39,958 人） 勤労青少年ホーム 716 件 7,423 人（R1: 927 件 12,249 人） ・自主事業 22 件 参加者数 155 人（R1: 29 件 449 人） 新型コロナウイルス対策 ・指定管理者支援補助金（文化福祉会館・勤労青少年ホーム） ●施設に則した維持管理をされており良好な運営がなされた。	千円 11,341 (R1 9,692)	自主事業の積極的展開等、 更なる利用促進の工夫を求め る必要がある。 個別施設計画を策定し、長 寿命化等を検討する必要があ る。	B (R1: B)
	施設の維持管理 【サンビーム】	必要最低限の施設修繕を実施する。						スプリンクラー等の修繕を行った。 ●施設の維持管理に係る最低限の修繕は図られた。	千円 3,182 (R1 33,718)	利用者の使用に支障がない ようにする為には、計画的に 設備更新を行う必要がある。	C (R1: C)

愛の5 スポーツ・レクリエーション活動の振興

番号	主な取組	①生涯スポーツの推進	実施期間					点検・評価			
	取組項目	取組内容【数値目標等】	28	29	30	元	2	実績と成果	経費	課題	評価
13	スポーツ活動への参加促進 【生涯・スポーツ】	参加機会の拡充、障害者スポーツの推進、健康増進及び安全確保の推進を図り、スポーツ活動への積極的参加に向けた普及啓発を行う。 ・市主催大会への参加促進 延べ 5,600 人						市民スポーツレクリエーションのつどい ・実施なし（R1: 3,300 人） 市民駅伝競走大会 12 月 13 日（日） ・中止（R1:80 チーム 518 人） ロードレース大会 1 月 11 日（祝） ・中止（R1:421 人） 健康ハイキング 2 月 11 日（祝） ・中止（R1:500 人） ●新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、イベントを中止した。	千円 0 (R1 763)	健康増進や生きがいづくり などのイベントを通じて、日 常的なスポーツ活動を促進し ていく必要がある。	※D (R1: B)

番号	主な取組	②競技力の向上	実施期間					点検・評価			
	取組項目	取組内容【数値目標等】	28	29	30	元	2	実績と成果	経費	課題	評価
14	スポーツに関する競技水準の向上推進 【生涯・スポーツ】	スポーツ教室や講習会、指導者の資質向上のための研修会などの開催と、各種団体との協働により、優れた資質を持つ選手の発掘・強化に努める。 ・市体育協会が実施する「スポーツ活性化支援事業」への財政支援 ・全国大会出場者数（団体含む。）						各団体への補助金交付 柳井市体育協会補助金 1,400 千円 地区スポーツ振興補助金 0 千円 スポーツ少年団関係補助金 0 千円 レクリエーション協会補助金 50 千円 ビジコムカップ野球大会補助金 0 千円 プラチナ卓球大会補助金 0 千円	千円 1,764 (R1 4,450)	トップアスリートや上級指導者の招へいなどにより、高い水準を見据えた競技力の向上を図る必要がある。	※D (R1: B)

		延 200 人							全国大会等出場者への激励金の交付 全国 38 人 県 148 人 (R1:全国 133 人 県 295 人) 314 千円 ●各種団体の運営・大会出場等への助成を行い、スポーツの振興 及び地域活性化に寄与できた。			
--	--	---------	--	--	--	--	--	--	---	--	--	--

番号	主な取組	③人材の育成	実施期間					点検・評価			
	取組項目	取組内容【数値目標等】	28	29	30	元	2	実績と成果	経費	課題	評価
15	スポーツを通じた 青少年の健全育成 及びスポーツ指導 者等の育成、活用 及び連携	スポーツ少年団活動等により活動を推進し、青少年の健全育成を図るとともに、市民が、「支える」楽しみを持って、気軽にスポーツに取り組めるよう多様な人材の育成に努める。 ・スポーツ少年団登録割合の向上 50% ・スポーツ少年団指導者研修会等への参加促進						スポーツ少年団の登録状況 ・団体 26 団体 (R1:27 団体) ・団員 434 人 (R1:445 人) ・指導者 114 人 (R1:114 人) ・登録割合 26.9% (R1:28.5%) スポーツ少年団本部の主な活動状況 ・体力テスト 中止 (R1：7 団体 89 人) ・柳井地域指導者・育成母集団研修会 R2 中止 (R1 平生町で開催、柳井市から 8 人参加) ・親子交歓会 中止 (R1：37 チーム 170 人) ●団員募集冊子の配布により各団体のPRを行った。	千円 — (R1 172)	全県（20.4%）で比べると加入率が高いが、少子化による団員の減少が続くことから、積極的な加入促進活動が必要である。	※D (R1：B)
	【生涯・スポーツ】										

番号	主な取組	④スポーツによる地域活性化	実施期間					点検・評価			
	取組項目	取組内容【数値目標等】	28	29	30	元	2	実績と成果	経費	課題	評価
16	地域交流及び情報発信の推進	スポーツイベントへの幅広い参加を促し、地域の交流を活性化させるとともに、スポーツを通じて地域の魅力を発信することにより、地域活性化を図る。						スポーツ合宿実施団体への支援	千円	スポーツ合宿の誘致策を検討する必要がある。	※D (R1：B)
	【生涯・スポーツ】	・スポーツ交流事業への助成 ・スポーツ合宿の推進及び助成 ・スポーツ推進審議会の開催 年1回						・スポーツ合宿 R2 利用実績なし (R1:8 団体 232 人 852 千円) ・柳井市スポーツ推進審議会の開催 0 回 サザンセット・ロングライド in やまぐち開催支援 ・R2 中止 (R1: ボランティア参加者 9 人) ●新型コロナウイルス感染症の影響により、イベント中止や交流事業自粛となった。	— (R1 852)		

番号	主な取組	⑤スポーツの場の充実及び施策の推進	実施期間					点検・評価			
	取組項目	取組内容【数値目標等】	28	29	30	元	2	実績と成果	経費	課題	評価
17	施設の整備及び利 用の促進	施設及び設備の充実と施設の利用促進 に取り組む。 ・ 体育施設の年間利用者数 450,000 人						施設の使用(利用)状況等 ・ 市体育館（指定管理） 2,050 件 34,969 人(R1:65,503 人) (11,287 千円) ・ ウェルネスパーク（指定管理）74,165 人(R1:106,031 人) (59,530 千円) テニスコート 1,581 件 9,351 人(R1:1,612 件 13,102 人) アクアヒルやない 54,364 人(R1: 76,414 人) 多目的広場 282 件 10,450 人(R1: 280 件 16,515 人) ・ 武道館等（指定管理） 47,877 人(R1: 65,620 人)	千円 240,030 (R1 180,710)	開催する教室の内容の充実 など、更なる利用促進のため の工夫が必要である。 また、利用者の安全の確保 及び施設の老朽化に対応する ため、個別施設計画を策定 し、長寿命化等を検討する必 要がある。	※C (R1:B)
	【生涯・スポーツ】										

							(19,752 千円) 武道館 813 件 13,012 人 (R1: 1,220 件 19,717 人) 南浜グラウンド 643 件 19,425 人 (R1: 661 件 25,452 人) 南浜テニスコート 727 件 9,296 人 (R1: 1,003 件 10,497 人) 小田浜グラウンド 148 件 6,144 人 (R1: 236 件 9,954 人) ・市民球場 (指定管理) 68 件 8,442 人 (R1: 152 件 26,438 人) (46,241 千円) ・弓道場 486 件 11,071 人 (R1: 557 件 12,935 人) ・大畠グラウンド 260 件 6,790 人 (R1: 602 件 10,084 人) ・伊陸地区体育館 704 件 10,037 人 (R1: 724 件 14,217 人) ・阿月地区体育館 23 件 339 人 (R1: 82 件 4,467 人) ・神代地区体育館 13 件 155 人 (R1: 518 件 6,452 人) ・遠崎地区体育館 501 件 6,823 人 (R1: 380 件 6,880 人) ・学校体育施設開放 3,584 件 52,903 人 (R1: 3,626 件 60,012 人) 年間利用者数の総計 253,567 人 (R1: 378,639 人) 新型コロナウイルス対策 ・トイレ手洗いの自動水栓化 (市体育館・市民球場・ウェルネスパーク等: 繰越明許) ・指定管理者支援補助金 (市体育館・ウェルネスパーク) ●施設に応じた維持管理により適宜改修・改善等を行った。 (R2 は、柳井ウェルネスパーク長寿命化対策事業としてアクアヒルやない給水ポンプの更新を行った。)			
スポーツに関する功績者 (個人・団体) の顕彰 【生涯・スポーツ】	スポーツに対する関心と意欲を高めるため、功績を挙げた方を顕彰する。						柳井市表彰規則、柳井市教育委員会選奨規則及び柳井市スポーツ推進条例に基づき、顕彰する。 ・市功労者表彰 1 人 (R1 1 人) ●功績等の情報収集に努め、機会を逃すことなく表彰した。	千円 — (R1 —)	常に功績等についての情報収集に努める必要がある。	B (R1 : B)
弓道場の建設 【生涯・スポーツ】	老朽化した弓道場の建替えを推進する。						柳井商業高等学校跡地利活用基本構想における整備スケジュールの進捗に沿って事業を開始する。	千円 — (R1 —)	新たな施設の供用開始まで、現施設における安全な利用環境の確保と、円滑な事業実施のための関係団体との協議を進める必要がある。	— (R1 : —)

番号	主な取組	①歴史的文化遺産の保存と活用	実施期間					点検・評価			
			28	29	30	元	2	実績と成果	経費	課題	評価
18	文化遺産の保全 【文化財室】	文化遺産の保全・継承のため、文化財への指定、補助金の交付や専門家による技術的支援を行う。						指定文化財等保存修理補助金交付3件 ・小田家町屋保存修理 1,729千円 ・月性追慕記念行事 【中止】 ・阿月神明祭 【中止】 ・伊陸南山神社神楽 【中止】 ・国森家消防設備点検 49千円 ・国森家消防設備修繕 19千円 ・松島詩子の名曲を歌う会 【中止】 ●文化遺産の保存や修理が行われた。	千円 1,797 (R1 1,578)	文化財保護の必要性について更なる啓発活動を行う必要がある。	※C (R1:B)
	伝統的建造物群保存地区の保存事業 【文化財室】	伝統的建造物群保存地区内の建物等の修理、修景を行う。						保存修理補助金交付(0件) ・相談等あったが、交付実績なし	千円 — (R1 516)	保存計画に沿い、地元住民の理解と協力を得ながら伝建地区の保存を行う必要がある。 県補助の廃止に伴い財源の確保が課題である。	— (R1:B)
	歴史・伝統的関連施設の活用 【文化財室】	しらかべ学遊館、茶臼山古墳、町並み資料館、大畠郷土民俗資料館、月性展示館、「むろやの園」等の利用促進に取り組む。						各施設入館状況 ・しらかべ学遊館 入館者数7,161人(R1:11,779人)1,270千円 ・茶臼山古墳 総入場者数9,385人(R1:10,854人)3,931千円 ・町並み資料館 入館者数10,179人(R1:23,286人)3,022千円 ・大畠郷土民俗資料館 入館者数28人(R1:5人)61千円 ・月性展示館 入館者数344人(R1:608人)2,909千円 (指定管理者管理運営) 新型コロナウイルス対策 ・トイレ手洗いの自動水栓化(しらかべ学遊館・茶臼山古墳資料館・月性展示館:緑越明許) ●各施設とも良好な管理が行われ、また特色を生かした展示も行われたことにより、歴史や伝統文化の保存と紹介ができた。	千円 11,193 (R1 9,969)	入館者数の増加を図るため、PRと情報発信に努める必要がある。 また、個別施設計画を策定し、長寿命化等を検討する必要がある。	※C (R1:B)
	埋蔵文化財保存調査事業の実施 【文化財室】	国営ほ場整備事業等の実施に併せて埋蔵文化財の試掘調査、発掘調査等を行う ・発掘調査の実施:R1 伊保庄地区 ・試掘調査の実施:R1 伊陸地区 余田地区						国営緊急農地再編整備事業等に伴う発掘調査(国営) ・発掘調査 伊陸地区「有実遺跡・松成西遺跡」17,647千円 ・発掘調査取りまとめ 伊保庄地区「長尾原遺跡2・五反田遺跡」4,531千円 農業競争力強化農地整備事業に伴う発掘調査委託(県営) ・発掘調査委託 新庄地区「信川遺跡」2,376千円 ●出土遺物や記録保存により地域の歴史資料を得ることができた。	千円 24,554 (R1 30,462)	専門職確保が課題である。	A (R1:A)

番号	主な取組	②伝統文化・芸能の保存・継承	実施期間					点検・評価			
	取組項目	取組内容【数値目標等】	28	29	30	元	2	実績と成果	経費	課題	評価
19	活動の支援と後継者の育成 【生涯・スポーツ】	メセナ（企業等による助成制度）の情報を把握し、該当する団体等に紹介する。						市の財源に限りがあるため、メセナの募集案内を文化連盟その他該当団体へ周知した。 ●エネルギー文化財団、山口きらめき財団等事業募集案内を行い、事業の検討に役立った。	千円 — (R1 —)	制度の周知に努め、活用を促進する必要がある。	B (R1 : B)

愛の7 郷土教材の開発と地域人材による郷土学習

番号	主な取組	①地域の文化財や歴史的事象を生かした教材開発	実施期間					点検・評価			
	取組項目	取組内容【数値目標等】	28	29	30	元	2	実績と成果	経費	課題	評価
20	地域の文化財や歴史的事象を生かした教材開発 【学校教育課】	小学校社会科副教材「ふるさと柳井」の改訂を行う。 ・「ふるさと柳井」改訂【令和2年度実施】						小学校社会科では「ふるさと柳井」を副教材に使用し、地域の歴史や文化について計画的に学習を進めている。また、「ふるさと柳井」の改訂を行い、令和3年度から使用できるようにした。 ●地域の偉人や文化財についての理解を深めることができた。	千円 2, 426 (R1 —)	教材を効果的に使用した授業の展開例を共有する等、活用についての工夫が必要である。	A (R1 : B)
	文化財等の利活用 【文化財室】	文化財説明看板の設置、専門職員の派遣や郷土史家の紹介、民俗資料の整理・貸出等を行う。（学校教育課への情報提供）						発掘調査説明会開催（有実・松成西遺跡）【雨天中止】 ・説明会に代わる対応は、別日に個別対応した。 ●有実・松成西遺跡について、理解が深まった。	千円 — (R1 —)	老朽化した説明看板の計画的な取替え・修繕が必要である。	C (R1 : B)

番号	主な取組	②生きた歴史を学ぶための、ゲストティーチャーによる授業の実施	実施期間					点検・評価			
	取組項目	取組内容【数値目標等】	28	29	30	元	2	実績と成果	経費	課題	評価
21	ゲストティーチャーによる授業 【学校教育課】	社会科や総合的な学習の時間を中心に、地域の方をゲストティーチャーに招き、地域の歴史について学ぶ授業を実施する。 ・授業実施回数 1回／年						各学校の教育課程にゲストティーチャーによる授業を位置付けて計画的に実施している。（小学校6校、中学校3校で実施） ●地域の歴史、戦争にまつわる話等、ゲストティーチャーとの授業を通して、多様な学びを獲得した。	千円 10 (R1 10)	各学校における「学校・地域連携カリキュラム」の更新、改善を図り、地域の歴史に触れる機会を設定するようにするとともに、育てたい資質能力の育成が図れるように、ねらいを明確にしてゲストティーチャーとの連携を密に図れるようにする。また、学校において感染症対策を講じた上で、工夫して実施できるよう好事例の共有を図る。	B (R1 : B)

基本方針 2 夢をはぐくむスクール・コミュニティづくりの推進

夢の1 学校運営協議会の機能の強化

番号	主な取組	① スクール・コミュニティセンターを中心とした、学校運営協議会の活性化に向けた支援と情報発信	実施期間					点検・評価			
			28	29	30	元	2	実績と成果	経費	課題	評価
22	取組項目	取組内容【数値目標等】									
	スクール・コミュニティだよりの発行 【学校教育課】	学校運営協議会や学校応援団、地域協育ネット※1の取組を紹介しスクール・コミュニティだよりを発行する。 ・スクール・コミュニティだよりの発行 3回/年 ※1 最後のページに注釈あり						地域連携教育エリアアドバイザーと連携し、本市における取組に加え、県内の状況も踏まえて作成し、学校運営協議会等において広報した。(回数3回)(R元:9回) ●各地区の活動を活発にする一助となった。	千円 10 (R1 10)	スクール・コミュニティの意義と目的の周知を意識しながら内容の充実を図るとともに、先進地の取組を積極的に紹介する必要がある。	B (R1:B)
	学校運営協議会への支援 【学校教育課】	地域連携教育エリアアドバイザー※2、柳井市スクール・コミュニティ総合コーディネーター※3がアドバイザーとして学校運営協議会に参加する。 ・学校運営協議会への参加 全ての学校運営協議会/年 ※1,2 最後のページに注釈あり						各学校の学校運営協議会において、市教委の施策を広めたり、各取組の価値を伝えたりして、全ての学校の運営協議会に参加し、質が向上するよう支援した。(回数57回)(R元:61回) ●熟議を積極的に取り入れる等、各校の学校運営協議会の質が向上してきた。	千円 1,155 (R1 1,155)	学校・家庭・地域の協働実践へつながるように、学校運営協議会の内容を更に充実させるとともに、学校運営協議会委員との日常的な関わりを充実させる。	B (R1:B)

番号	主な取組	②学校、家庭、地域住民の連携と協力に根ざしたコミュニティ・スクールの運営	実施期間					点検・評価			
			28	29	30	元	2	実績と成果	経費	課題	評価
23	取組項目	取組内容【数値目標等】									
	コミュニティ・スクール運営推進書の作成 【学校教育課】	学校、家庭、地域住民が連携し、それぞれが果たすべき役割を明記したコミュニティ・スクール運営推進書を作成し、学校関係者評価を実施する。 ・全小中学校でコミュニティ・スクール運営推進書を作成する。 ・全小中学校で実態把握に基づいた学校関係者評価を実施する。						市内全小中学校で学校、家庭、地域の役割を明確にしながら連携する運営推進書を作成した。また、評価については、学校、家庭、地域それぞれが取組の主体として評価していくことを支援した。 ●「地域とともにある学校」づくりに向け、具体的な方策を示すことができた。	千円 — (R1 —)	HPの活用等、運営推進書を広く地域に公開する必要がある。その際、伝えたい内容を精選するなど、分かりやすいものにする必要がある。	B (R1:B)
	地域に開かれた学校要覧の作成 【学校教育課】	学校の特色や地域連携の様子が分かる学校要覧を作成する。 ・全小中学校で地域に開かれた学校要覧を作成する。						全ての学校において作成しており、写真や図を活用し、分かりやすい紙面になるよう工夫した。 ●各校の創意工夫により、学校の様子が地域や保護者に伝わり、連携が深まってきた。	千円 45 (R1 45)	HP等の活用や公民館に備え置くなどして広く発信する。その際、個人情報の保護等、伝える内容に留意する必要がある。	B (R1:B)

番号	主な取組	③教職員が一体となってコミュニティ・スクールの運営に当たる仕組みづくり	実施期間					点検・評価			
	取組項目	取組内容【数値目標等】	28	29	30	元	2	実績と成果	経費	課題	評価
24	校内体制の整備 【学校教育課】	コミュニティ・スクールの運営に対する教職員の参画意識を高める仕組みづくりを行う。 ・全教職員がコミュニティ・スクールの運営について協議する会議を実施する。 1回/年						教職員が学校運営協議会や学校応援団総会等、コミュニティ・スクールについての理解を深めたり、地域の方の思いを知ったりする場と機会を大切にしている。 ●コロナ禍において、改めて地域連携についての意義を見つめ直す機会となった。	千円 — (R1 —)	「社会に開かれた教育課程の実現」という観点から、地域連携の意義について教職員の意識を高めていく必要がある。	B (R1 : B)

番号	主な取組	④地域住民との交流の拠点となるコミュニティ・ルームの整備・活用	実施期間					点検・評価			
	取組項目	取組内容【数値目標等】	28	29	30	元	2	実績と成果	経費	課題	評価
25	コミュニティ・ルームの活用 【学校教育課】	地域住民との交流の拠点となるコミュニティ・ルームを積極的に活用する。 ・学校と地域住民とのコミュニティ・ルームの活用 10回/年						市内全小中学校のコミュニティ・ルーム、又はコミュニティ・スペースは、年間を通して活用されている。 ●コミュニティ・ルームやスペースを活用して、会議や活動に関する掲示、作品展示等によって、地域住民と学校、地域住民同士の交流を図っている。	千円 — (R1 —)	各学校の状況に応じて、引き続き地域住民の交流の拠点となるとともに、教職員や児童生徒との交流の場にも広げ、市内全体で充実を図っていく必要がある。	※C (R1 : —)

夢の2 学校支援ボランティアのさらなる充実

番号	主な取組	① スクール・コミュニティセンターを中心とした、学校応援団活動の充実に向けた支援	実施期間					点検・評価			
	取組項目	取組内容【数値目標等】	28	29	30	元	2	実績と成果	経費	課題	評価
26	学校応援団研修会の実施 【学校教育課】	教職員とボランティア、ボランティア同士が交流し、学校応援団の充実に資する研修会を実施する。 ・1回/年						平成30年度まで実施していた「柳井市学校応援団研修会」を、他の研修会と同時開催にして「やない教育の日」として実施することとしていたが、コロナ禍のため中止とした。県主催の地域連携教育研修会においては、市内の2つの学校応援団が実践発表を行った。(地域連携担当教員や地域コーディネーター等が参加) ●学校と地域との連携を図る鍵となる「地域連携担当教員」に対し、その役割と意義、コロナ禍においてできること等、意識高揚を図ることができた。	千円 10 (R1 10)	ボランティア同士のつながりがより深まるように、研修会の内容を更に充実させる必要がある。また、コロナ禍においても実施できるように、開催方法を検討する必要がある。	※C (R1 : B)

番号	主な取組	②スクール・コミュニティセンターによる、学校応援団に関する情報収集と情報発信	実施期間					点検・評価			
	取組項目	取組内容【数値目標等】	28	29	30	元	2	実績と成果	経費	課題	評価
27	スクール・コミュニティだよりの発行 （再掲：番号 22） 【学校教育課】	学校運営協議会や学校応援団、地域協育ネットの取組を紹介しスクール・コミュニティだよりを発行する。 ・スクール・コミュニティだよりの発行 3 回/年						地域連携教育エリアアドバイザーと連携し、本市における取組に加え、県内の状況も踏まえて作成し、学校運営協議会等において広報した。（回数 3 回）（R 元：9 回） ●各地区の活動を活発にする一助となった。	千円 1 0 （R1 10）	スクール・コミュニティの意義と目的の周知を意識しながら内容の充実を図るとともに、先進地の取組を積極的に紹介する必要がある。	B （R1：B）

番号	主な取組	③新たな学校応援団登録者の募集	実施期間					点検・評価			
	取組項目	取組内容【数値目標等】	28	29	30	元	2	実績と成果	経費	課題	評価
28	新たな学校応援団登録者の募集 【学校教育課】	保護者や保護者 O B を中心としたボランティア登録者を募集する。 ・10 人/年						学校応援団の登録者が 1,199 人となった。（R 元：1,064 人） ●学校応援団の取組に理解が深まってきた。	千円 2 5 7 （R1 174）	登録者が実際に活動できるよう、計画や広報の工夫に努めるとともに、毎年蓄積されていく登録者名簿を見直す必要がある。	A （R1：A）

番号	主な取組	④学校を単位としたボランティア組織立ち上げの支援	実施期間					点検・評価			
	取組項目	取組内容【数値目標等】	28	29	30	元	2	実績と成果	経費	課題	評価
29	学校を単位としたボランティアの組織化 【学校教育課】	学校の実態に応じ、ボランティア組織「学校応援団」を設置する。 ・令和元年までに、学校若しくは中学校区を単位としたボランティアの組織化を図る。 令和元年度【設置済み】						令和元年度に学校応援団は組織化済み。 事業完了	千円 —		—

夢の 3 地域協育ネットの充実

番号	主な取組	①スクール・コミュニティセンターによる、地域協育ネットの活動の充実に向けた支援	実施期間					点検・評価			
	取組項目	取組内容【数値目標等】	28	29	30	元	2	実績と成果	経費	課題	評価
30	地域協育ネット協議会への参加 【学校教育課】	地域連携教育エリアアドバイザー※2 と柳井市スクール・コミュニティ総合コーディネーター※3 がアドバイザーとして全ての地域協育ネット協議会に参加する。						全ての地域の協育ネット協議会に、柳井市市総合コーディネーター、市教委社会教育主事・指導主事等が参加し、取組の価値を伝えたり、今後の方向性を示したりした。 ●コロナ禍においてできることを考えることができた。	千円 — （R1 —）	各中学校区の実態に応じ、地域協育ネットの活動を更に活性化させる必要がある。	B （R1：B）

番号	主な取組	②スクール・コミュニティセンターによる、地域協育ネットに関する情報収集と情報発信	実施期間					点検・評価			
	取組項目	取組内容【数値目標等】	28	29	30	元	2	実績と成果	経費	課題	評価
31	スクール・コミュニティだよりの発行 (再掲: 番号 22, 27) 【学校教育課】	学校運営協議会や学校応援団、地域協育ネットの取組を紹介したスクール・コミュニティだよりを発行する。 ・スクール・コミュニティだよりの発行 3回/年						地域連携教育エリアアドバイザーと連携し、本市における取組に加え、県内の状況も踏まえて作成し、学校運営協議会等において広報した。(回数3回)(R元: 9回) ●各地区の活動を活発にする一助となった。	千円 10 (R1 10)	スクール・コミュニティの意義と目的の周知を意識しながら内容の充実を図るとともに、先進地の取組を積極的に紹介する必要がある。	B (R1: B)

夢の4 幼保小中高連携の強化

番号	主な取組	①幼保小連携協議会の開催	実施期間					点検・評価			
	取組項目	取組内容【数値目標等】	28	29	30	元	2	実績と成果	経費	課題	評価
32	幼保・小連携協議会の開催 【学校教育課】	子どもが新しい学校生活に円滑に移行できるように、情報交換等を行う連携協議会を開催する。 ・1回/年						幼保・小連携協議会の開催(1回: 2月)(R元: 2回) (5月に予定していた第1回は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止) ●小学校就学に係る、幼保・小を含めての関係機関のネットワークについて協議し、連携体制を強化できた。	千円 — (R1 —)	令和3年度から年1回開催への変更が決まり、より効果的な内容の協議会となるよう、参加者のニーズを把握する必要がある。	※C (R1: B)

番号	主な取組	②幼保小接続カリキュラムの協同実践	実施期間					点検・評価			
	取組項目	取組内容【数値目標等】	28	29	30	元	2	実績と成果	経費	課題	評価
33	小学校教員による幼児教育・保育体験 【学校教育課】	幼保・小のつながりを意識した取組を進めるために、保育・幼児教育体験を実施する。 ・1回/年						小学校教諭による保育・幼児教育体験の実施(夏休み期間中1日) ●小学校2校から3人が2つの保育園を訪問し、保育・幼児教育体験を通して「小1プロブレム」解消の手立てを探ることができた。新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、応募が少なかった側面がある。	千円 — (R1 —)	これまで参加が少なかった学校に周知し、参加校が偏らないよう努める必要がある。また、コロナ禍においても実施できるように感染対策を講じる。	※B (R1: A)

番号	主な取組	③小中一貫教育に関する研究の推進	実施期間					点検・評価			
	取組項目	取組内容【数値目標等】	28	29	30	元	2	実績と成果	経費	課題	評価
34	相互乗り入れ授業の実施 【学校教育課】	中学校区で、小中の教員が相互乗り入れ授業(授業交流)を行う。 ・1回/週						中学校教諭が校区内小学校で、TT(複数の教員で指導に当たること)等による教科の専門性を生かしたアドバイスを提供できた。また、小学校教諭が中学校でTTとして授業に参加した。 (例: 柳井中学校区では、柳井中から校区内各小学校へ週6時間、柳井小から柳井中へ週2時間実施) ●小中連携を更に深めることができ、中1ギャップの解消と学力向上の一助ともなっている。	千円 — (R1 —)	柳井小、柳井中以外の小・中学校には教員配置がないため、時間数を増やすのが難しいと考えている。 相互に乗り入れた教員の効果的な活用についても改善の余地がある。	B (R1: B)

番号	主な取組	④校種間連携による教育活動の推進	実施期間					点検・評価			
	取組項目	取組内容【数値目標等】	28	29	30	元	2	実績と成果	経費	課題	評価
35	校種間連携を推進するための各種協議会の開催 【学校教育課】	校種間連携による教育活動を充実させるために、小中高連携教育校長協議会、小中高連携生徒指導連絡協議会、柳井市学校保健委員会、小中高連携英語教育推進協議会を開催する。 ・各協議会等を定期的に開催/年						柳井市の子どもたちの現状と課題を共有し、子どもたちに付けた い力について協議した（各協議会１～２回開催/年） ①コミュニティ・スクールの仕組みを生かした地域連携の推進 ②課題解決に向けた共通実践 ③物的・人的資源の活用 ●異校種間のスムーズな連携に向け、共通実践に対する教職員の意識が向上した。	千円 — (R1 —)	地域との連携を視野に入れた効果的な異校種間連携の在り方を検討する必要がある。 高等学校との連携を意識的に進める必要がある。	B (R1 : B)

夢の５ 家庭教育充実のための支援の強化

番号	主な取組	①家庭の教育力を高めるための支援の充実	実施期間					点検・評価			
	取組項目	取組内容【数値目標等】	28	29	30	元	2	実績と成果	経費	課題	評価
36	啓発活動による支援 【生涯・スポーツ】	リーフレットの活用や家庭教育アドバイザー講座等の活用を図る。						山口県青少年育成県民会議との連携【会議中止】 啓発リーフレット配付 １回 こども環境クリーンアップ活動 １日 ●各小学校の仮入学日に、市民会議常任委員等が学校へ赴き、家庭の日クリアファイルの配布と説明を行うことで、家庭の日の周知を図ることができた。	千円 — (リーフレット等県民会議負担) (R1 —)	家庭、地域等の啓発活動への協力を促す必要がある。	B (R1 : B)

番号	主な取組	②家庭児童相談員及び少年安全サポーターの配置	実施期間					点検・評価			
	取組項目	取組内容【数値目標等】	28	29	30	元	2	実績と成果	経費	課題	評価
37	少年安全サポーターの活用 【生涯・スポーツ】	市内学校等を対象に不審者対応訓練、ネット問題対策教室、薬物乱用防止教室等を実施する。 ・市内小中学校 13 校						小中学校への指導等校数（柳井市内） 8 回（6 校） ●警察署との連携がよりスムーズになった。	千円 — (山口県警察負担) (R1 —)	学校等へサポーターの活動について詳しく周知し、活用の促進を図る必要がある。	※C (R1 : B)

番号	主な取組	③学校、家庭、地域の連携による「学びのサイクル」の確立配置	実施期間					点検・評価			
	取組項目	取組内容【数値目標等】	28	29	30	元	2	実績と成果	経費	課題	評価
38	学びのサイクルの質的な向上 【学校教育課】	努力目標を学校と家庭・地域が話し合っ て定め、成果を検証する。 ・家庭へのアンケート実施 2 回/年						市が主催する研修会等において、全小中学校の共通理解を図っている。また、その取組について、各学校が行う学校アンケートで検証・改善している。 ●家庭学習の工夫等により、家庭と学校が連携して家庭学習の時間を増やすことができた（各学校実施のアンケートで検証）。	千円 — (R1 —)	学校や家庭によって、取組に差が見られる。継続的な取組が必要となる。	B (R1 : B)

夢の6 放課後子ども教室の充実

番号	主な取組	①しらかべ学遊館による放課後子ども教室の実施	実施期間					点検・評価			
	取組項目	取組内容【数値目標等】	28	29	30	元	2	実績と成果	経費	課題	評価
39	しらかべ学遊館放課後子ども教室の開催 【生涯・スポーツ】	しらかべネット及び学校応援団の関係機関と連携して地域の実情に応じた放課後子ども教室の取組を実施する。						放課後子ども教室 ・開催数 8回 ・参加者数 55人 しらかべネット ・子ども広場（柳井まつり）【中止】 ●地区開催の放課後子ども教室については、引き続き児童クラブとの連携を強化した。	千円 — (R1 17)	地域の実情に応じたプログラムを展開する必要がある。	※D (R1 : B)

番号	主な取組	②学校を単位とした放課後子ども教室の実施	実施期間					点検・評価			
	取組項目	取組内容【数値目標等】	28	29	30	元	2	実績と成果	経費	課題	評価
40	各学校における放課後子ども教室の開催 【生涯・スポーツ】	学校の実情やニーズに応じた活動を展開していく。						コロナ禍で感染拡大防止対策を行い、柳東小学校、柳北小学校、大畠小学校、柳井西中学校においては学習支援を実施したが、昨年度に比べ、開催校が少なかった。 4校(R1: 9校) ●児童生徒の学力補充や学習習慣を定着させることができた。	千円 — (R1 —)	学習支援のボランティアを更に拡充し、内容の見直しの必要がある。	※C (R1 : A)

基本方針 3 志を実現させるための育成

志の1 「確かな学力」の育成

番号	主な取組	①学習指導要領の着実な実施	実施期間					点検・評価			
	取組項目	取組内容【数値目標等】	28	29	30	元	2	実績と成果	経費	課題	評価
41	年間授業時数の確保 【学校教育課】	学習指導要領を着実に実施するための年間授業時数を確保する。 ・標準授業時数を上回る授業時数を確保/年						各校の学校経営概要に週ごとの時数や時間割を明記し、年間の時間数を確保している。 定期的（週ごと、学期ごと）に時間数をチェックし、予定どおりの時間数で授業が行われているか確認をしている。 ●新型コロナウイルス感染症対策に伴う臨時休業により、夏季休業期間を充てて授業時数分の確保をした。	千円 — (R1 —)	授業時数を確保するために夏季休業期間を充てた。引き続き、教育課程を見直し、学習内容の重点化を図る必要がある。	B (R1 : B)
	ジュニア数学オリンピックの開催 【学校教育課】	各中学校から参加者を募り、市教研数学部会が中心となって問題を作成し、大会を開く。 ・対象学年生徒の10%の参加						新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、実施されなかった。 ●今年度は、市内中学校数学科教員を対象に「新学習指導要領 中学校数学科の評価問題等に関するオンライン研修会」を実施し、評価の在り方についての理解を深めた。	千円 — (R1 —)	今年度の開催はなかったが、市の取組であるが、例年参加者が少ない点に課題がある（令和元年度 91人 7.5%）。	※C (R1 : B)

番号	主な取組	②学校、家庭、地域の連携による「学びのサイクル」の確立（再掲）	実施期間					点検・評価			
	取組項目	取組内容【数値目標等】	28	29	30	元	2	実績と成果	経費	課題	評価
42	学びのサイクルの質的な向上 （再掲：番号 38） 【学校教育課】	努力目標を学校と家庭・地域が話し合っ て定め、成果を検証する。 ・家庭へのアンケート実施 2 回/年						市が主催する研修会等において、全小中学校の共通理解を図って いる。また、その取組について、各学校が行う学校アンケートで検 証・改善している。 ●家庭学習の工夫等により、家庭と学校が連携して家庭学習の時間 を増やすことができた（各学校実施のアンケートで検証）。	千円 — (R1 —)	学校や家庭によって、 取組に差が見られる。継 続的な取組が必要とな る。	B (R1 : B)

番号	主な取組	③読書活動の充実	実施期間					点検・評価			
	取組項目	取組内容【数値目標等】	28	29	30	元	2	実績と成果	経費	課題	評価
43	学校図書館の整備 【学校教育課】	学校司書が全ての小・中学校図書館の適 正な配置・本の整理を行う。 ・令和 2 年度までに完了						配置対象校を市内の全小学校とし、学校司書を 5 人配置した。 ●児童の読書活動の推進と読書環境整備に寄与した。	千円 2, 4 1 7 (R1 2,081)	全小中学校への配置を 進める必要がある。	B (R1 : B)

番号	主な取組	④データに基づいた着実な PDCA サイクル の実施	実施期間					点検・評価			
	取組項目	取組内容【数値目標等】	28	29	30	元	2	実績と成果	経費	課題	評価
44	学力向上担当を集 めた研究集会の実 施 【学校教育課】	全国学力・学習状況調査、県学力定着状 況確認問題後、市内で学力向上研究集会を 行い、課題の改善の視点を協議する。 ・学力向上研究集会 2 回/年						学力向上研究集会 9 月 25 日、2 月 9 日の 2 回実施 ●研究集会参加者（各小・中学校学力向上担当教員及び学力向上推 進リーダー）で学力学習状況調査等のデータ分析の結果や好事例を 共有し、全市体制で学力向上に取り組めた。	千円 — (R1 —)	各校の実態に応じた支 援を更に進めていく必要 がある。	A (R1 : A)

志の 2 「豊かな心」の育成

番号	主な取組	①豊かな心をはぐくむための体験活動の 充実	実施期間					点検・評価			
	取組項目	取組内容【数値目標等】	28	29	30	元	2	実績と成果	経費	課題	評価
45	体験活動の年間指 導計画への位置づ け 【学校教育課】	全ての小中学校において、体験活動を年 間指導計画に位置付け、実施する。 ・毎年実施						全小・中学校において、各種体験活動を年間指導計画に位置づ け、実施している。 例：小学校 ぶどう栽培体験(3・4 年)、神楽(3・4 年) 中学校 三味線を使った演奏(3 年) ●様々な活動を体験することにより児童生徒の自己肯定感、他者肯定 感、地域肯定感の伸長を図ることができた。	千円 — (R1 —)	学校運営協議会の場にお いて、スクール・コミュニ ティの視点から、内容の見 直しや地域との協働活動へ の転換に結びつけていく必 要がある。	A (R1 : B)

志の3 「健やかな体」の育成

番号	主な取組	①体力向上の推進	実施期間					点検・評価			
	取組項目	取組内容【数値目標等】	28	29	30	元	2	実績と成果	経費	課題	評価
46	体力・運動能力の向上 【学校教育課】	各校において体力・運動能力に関する課題の改善に取り組む。 ・市の体力合計点の平均が全国平均を上回る。						新型コロナウイルス感染拡大防止のため、全国体力・運動能力、運動習慣等調査及び県子ども元気調査（体力・生活調査）が中止となった。本市においても、新体力テストについては「各校の実態に応じ、実施時期や内容等を検討しながら可能であれば実施する」としたため、ほとんどの学校で実施が見送られた。 ●令和2年度は、本市児童生徒の体力の現状について、相対的な分析は難しい。	千円 — (R1 —)	引き続き、長座体前屈の改善に向けた具体的な対策を各校に促していく必要がある。	※C (R1 : B)

番号	主な取組	②学校保健の充実	実施期間					点検・評価			
	取組項目	取組内容【数値目標等】	28	29	30	元	2	実績と成果	経費	課題	評価
47	課題に即した学校保健活動 【学校教育課】	ブロックごとに、実際の子どもの課題を洗い出し、具体的な提案を行う。 ・学校保健委員会で成果の発表 2回/年						中央、余新・大島、高等学校の3ブロックにより、各テーマに沿った活動を展開し、実践報告（2/15）と書面での提出を行った第1回学校保健委員会と市健康フォーラムは新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止であった。 ●小中がつながりのある課題を共有し、取組に反映させることができた。	千円 600 (R1 600)	コロナ禍においても実践できるように、報告の実施方法と市健康フォーラムの開催方法を検討する必要がある。	※C (R1 : A)

番号	主な取組	③食育の充実	実施期間					点検・評価			
	取組項目	取組内容【数値目標等】	28	29	30	元	2	実績と成果	経費	課題	評価
48	食に関する指導研修会の実施 【学校教育課】	学校における食育推進体制の強化を図るため、教職員を対象とした食に関する県主催の研修会に参加する。 ・1回/年						栄養教諭が研修会への参加や、市内で教諭、養護教諭とともに授業公開（1/15）を実施した。 ●公開授業では、教諭だけでなく、栄養教諭、栄養士、養護教諭の参加も多く、それぞれのニーズに合わせた情報を提供できた。	千円 — (R1 —)	継続的な取組が必要である。	A (R1 : —)
	巡回訪問 【給食センター】	食に関心をもつ児童生徒を育てるため、希望するクラスへ巡回訪問を行う。 ・1回/年						栄養教諭による小中学校への給食巡回指導を、小学校6校に対し延べ22回実施した。（別途、栄養教諭が配置されている学校は概ね毎週実施している。） ●児童生徒の食に対する意識を実地に調査することで、献立等の作成に役立った。また、児童生徒が食への関心を高め、食べることの大切さを学ぶ機会づくりに努めた。	千円 — (R1 —)	巡回指導は、学校の希望を受け、授業として実施するため、学校の協力が必要である。 また、中学校は新型コロナウイルスの影響による休校や自粛のため、実施が困難だった。	※C (R1 : B)

番号	主な取組	④安全教育の推進	実施期間					点検・評価			
	取組項目	取組内容【数値目標等】	28	29	30	元	2	実績と成果	経費	課題	評価
49	危険予測学習の実施 【学校教育課】	自分の身は自分で守る意識の高揚を図るため、各校において、危険予測学習（KYT）を実施する。 ・1回/年						全小・中学校にて安全教育年間指導計画に位置づけ、実施している。 ●各種災害における危険予測学習を地域との防災訓練に生かすことができた。	千円 — (R1 —)	引き続き、各校の取組を市全体で共有し、学習内容の質の向上を図る必要がある。	A (R1 : B)

志の4 キャリア教育の推進

番号	主な取組	①立志の教育の推進	実施期間					点検・評価			
	取組項目	取組内容【数値目標等】	28	29	30	元	2	実績と成果	経費	課題	評価
50	二分の一成人式、立志の集いの実施 【学校教育課】	志を立て、夢に向かう気持ちを高揚させるため、毎年、小学校4年において「二分の一成人式」、中学校2年において「立志の集い」を実施する。 ・1回/年						児童生徒の参加や作品発表の場となってきた「立志の教育のつどい」は令和元年度までの開催とした。各校において、小学校4年対象の「二分の一成人式」や、中学校2年対象の「立志の集い」を実施した。 ●新型コロナウイルス感染拡大防止に留意しながら、各校の特色を生かして実施した。	千円 — (R1 11)	志や夢を育てる機会を確保するだけでなく、児童生徒の主体性が生かされる実践へと内容を充実させていく必要がある。	A (R1 : A)

番号	主な取組	②教育活動全体をととしたキャリア教育の推進	実施期間					点検・評価			
	取組項目	取組内容【数値目標等】	28	29	30	元	2	実績と成果	経費	課題	評価
51	キャリア・パスポートの活用 新規 【学校教育課】	日頃のキャリア教育の実践をファイルにまとめ、小中高12年間の取組をつなぐ。 ・令和2年度より実施						全小・中学校にキャリア・パスポートを作成するためのファイルや内容例を送付し、今年度より開始した。 ●キャリア教育に関する活動を記録し、蓄積するための教材として、活用を始めることができた。	千円 85	学級活動を要として、全教育活動を通じた計画的な取組を行い、充実させる。また、日常的に身近な大人の良さを伝えられる機会を充実させる。	B

志の5 特別支援教育の充実

番号	主な取組	①相談支援体制の充実	実施期間					点検・評価			
	取組項目	取組内容【数値目標等】	28	29	30	元	2	実績と成果	経費	課題	評価
52	情報連絡協議会の開催 【学校教育課】	支援を要する子どもの情報共有と連携の強化を図るため、保健師、地域コーディネーター、家庭児童相談員、市教委による情報連絡協議会を定例的に開催する。 ・1回/年						地域コーディネーター、家庭児童相談員、保健師、指導主事で柳井市特別支援専門家チームを構成し、市内全幼稚園・保育園（所）を巡回訪問した後に、情報を確認・集約する情報連絡協議会を開催した。 ●特別な支援を要する子どもの早期発見・早期支援に努めた。	千円 — (R1 —)	訪問時の効果的な時間の使い方について、園関係者からのニーズを基に見直す必要がある。	A (R1 : A)

番号	主な取組	② インクルーシブ教育システムの構築に向けた取組の推進	実施期間					点検・評価			
53	取組項目	取組内容【数値目標等】	28	29	30	元	2	実績と成果	経費	課題	評価
	園・所への巡回訪問の実施 【学校教育課】	園・所における子どもの教育的ニーズと必要な支援について共通理解を深め、早期の相談・支援を行うために、市内の園・所を訪問する。 ・1回/年						市内外14の園及び所の巡回訪問を実施 ●関係機関との連携体制も確立され、早期対応が可能となってきた。	千円 — (R1 —)	近隣市町教委及び柳井地域特別支援教育センター地域コーディネーターとの連携を強化し、更に情報共有を促進する必要がある。	A (R1:A)
番号	主な取組	③ 関係諸機関との連携による校内支援体制の確立	実施期間					点検・評価			
54	取組項目	取組内容【数値目標等】	28	29	30	元	2	実績と成果	経費	課題	評価
	校内コーディネーター研修会の開催 【学校教育課】	各学校の特別支援教育推進の要となる校内コーディネーターの資質向上に向けて、研修会を開催する。 ・1回/年						校内コーディネーター研修会の実施（年1回、5月） ●柳井市が事務局となり、柳井地域5市町合同での実施を計画したが、新型コロナウイルス感染拡大防止のために中止とした。地域コーディネーターと指導主事が希望校を訪問しての実施に5校から応募があり、校内コーディネーターの役割等について周知を図った。	千円 — (R1 —)	コロナ禍においても校内コーディネーターのニーズに合った研修内容となるよう、会場や時期、講師等を工夫する必要がある。	※C (R1:B)

番号	主な取組	④一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援のできる教員の指導力の向上	実施期間					点検・評価			
55	取組項目	取組内容【数値目標等】	28	29	30	元	2	実績と成果	経費	課題	評価
	特別支援教育推進週間の実施 【学校教育課】	一人ひとりを大切にしたい学習活動を行うスキルの向上のために、全ての小中学校において特別支援教育推進週間を実施する。 ・2回/年						全ての小中学校における特別支援教育推進週間の実施（年2回・6月第1週及び11月第2週） ●特別支援教育の視点に立った教室環境整備や授業改善に対する教職員の意識向上が図られてきた。	千円 — (R1 —)	児童生徒の自己肯定感を高める声かけを重点的に行う必要がある。	A (R1:B)

志の6 生徒指導の充実

番号	主な取組	①児童生徒との信頼関係を基盤とした積極的な生徒指導の推進	実施期間					点検・評価			
56	取組項目	取組内容【数値目標等】	28	29	30	元	2	実績と成果	経費	課題	評価
	異年齢交流活動の実施 【学校教育課】	児童生徒が自ら喜びや自信を獲得することができる機会として、各校において異年齢の交流活動を行う。 ・数回/年						新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止となった活動あったが、各種学校行事や学習活動の中で、異年齢交流活動を展開している。 ●各種行事の中で、縦割り班等の異年齢集団を単位とした活動を工夫して取り入れるようになった。	千円 — (R1 —)	更に、自己肯定感及び他者肯定感を感得することのできる機会を保障していく必要がある。また、開催方法にも改善の工夫ができると考えられる。	※B (R1:A)

番号	主な取組	②一人ひとりの子どもに寄り添う教育相談体制の充実	実施期間					点検・評価			
	取組項目	取組内容【数値目標等】	28	29	30	元	2	実績と成果	経費	課題	評価
57	スクールカウンセラーの配置・訪問支援 【学校教育課】	心理士による専門的なカウンセリングを行うため、全ての学校にスクールカウンセラーを派遣する体制を構築する。 ・全ての学校への訪問/年						中学校区ごとにスクールカウンセラーを配置し、全ての小中学校に対し、訪問支援を実施している。(市内2人配置) ●児童生徒の悩みや問題行動等に対する専門的知見から、子どもたちの思いの受容を行うとともに、教職員や保護者等にその解決に対するアプローチについて助言及び支援が行われた。また、不登校の未然防止・早期対応の一助となっている。	千円 — (山口県負担) (R1 —)	様々な問題を抱える児童生徒が増えるとともに、保護者に対する支援、相談の必要性が年々高まっている。回数を増やすように県に要望している。	B (R1: B)

番号	主な取組	③学校、家庭、地域や関係機関とのネットワークの強化	実施期間					点検・評価			
	取組項目	取組内容【数値目標等】	28	29	30	元	2	実績と成果	経費	課題	評価
58	スクールソーシャルワーカーの配置 【学校教育課】	スクールソーシャルワーカーを学校教育課に配置し、各校における家庭環境に起因する諸問題の解決に当たる。 ・3人委嘱						学校及び関係機関の要請等により、スクールソーシャルワーカーの派遣を実施している。(3人委嘱/年) ●家庭、学校、関係機関をつなぐ役割を果たせるようになってきた。	千円 600 (県2/3負担) (R1 556)	学校からの要請が年々増加しており、引き続き、学校や関係機関と連携して対応していく必要がある。	A (R1: A)

番号	主な取組	④いじめの未然防止、早期発見、早期対応のための体制づくりの推進	実施期間					点検・評価			
	取組項目	取組内容【数値目標等】	28	29	30	元	2	実績と成果	経費	課題	評価
59	「週1アンケート」の実施 【学校教育課】	人間関係の小さな変化や初期段階のいじめを発見するため、全ての小中学校においてアンケートを実施する。 ・1回/週						全ての小中学校において週1回実施している。 ●アンケート結果をもとに生徒指導連絡会等で情報共有を図ることにより、早期発見・対応がなされている。些細な言動を見逃さないという教員の意識改革につながっている。	千円 — (R1 —)	児童・生徒が記入しやすいようなアンケート内容や、迅速な情報共有を図るための工夫が必要である。また、アンケートの内容を踏まえた積極的な生徒指導が必要である。	B (R1: B)

番号	主な取組	⑤不登校や問題行動へのきめ細かな対応の充実	実施期間					点検・評価			
	取組項目	取組内容【数値目標等】	28	29	30	元	2	実績と成果	経費	課題	評価
60	生徒指導主任研究集会の開催 【学校教育課】	具体的な指導についての研修を行うため、各校の生徒指導主任等を対象とした研究集会を開催する。 ・1回/年 ・いじめ問題研修会の開催 3回/年						いじめ問題研修会の開催(年3回) 「児童虐待及び体罰問題」や「不登校」をテーマに、経験豊富な講師を招聘して、学校現場ですぐに取り組めるような実践的な内容になるように努めた。 ●不登校をテーマにした生徒指導主任会が自主的に開かれるなど、具体的な動きが生まれた。	千円 — (R1 —)	各校や他市町における好事例を共有するなど、連携体制を充実する必要がある。	B (R1: B)

志の7 幼児教育の充実

番号	主な取組	①幼保小連携協議会の開催（再掲）	実施期間					点検・評価			
	取組項目	取組内容【数値目標等】	28	29	30	元	2	実績と成果	経費	課題	評価
61	幼保・小連携協議会の開催 （再掲：番号32） 【学校教育課】	子どもが新しい学校生活に円滑に移行できるように、情報交換等を行う連携協議会を開催する。 ・1回/年						幼保・小連携協議会の開催（1回：2月）（R元：2回） （5月に予定していた第1回は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止） ●小学校就学に係る、幼保・小を含めての関係機関のネットワークについて協議し、連携体制を強化できた。	千円 — （R1 —）	令和3年度から年1回開催への変更が決まり、より効果的な内容の協議会となるよう、参加者のニーズを把握する必要がある。	※C （R1：B）
番号	主な取組	②幼保小接続カリキュラムの協同実践（再掲）	実施期間					点検・評価			
	取組項目	取組内容【数値目標等】	28	29	30	元	2	実績と成果	経費	課題	評価
62	小学校教員による幼児教育・保育体験 （再掲：番号33） 【学校教育課】	幼保・小のつながりを意識した取組を進めるために、保育・幼児教育体験を実施する。 ・1回/年						小学校教諭による保育・幼児教育体験の実施（夏休み期間中1日） ●小学校2校から3人が2つの保育園を訪問し、保育・幼児教育体験を通して「小1プロブレム」解消の手立てを探ることができた。 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、応募が少なかった側面がある。	千円 — （R1 —）	これまで参加が少なかった学校に周知し、参加校が偏らないよう努める必要がある。	※B （R1：A）

志の8 教職員の資質向上

番号	主な取組	①多様な教育課題に対応する力を付けるための研修の充実	実施期間					点検・評価			
	取組項目	取組内容【数値目標等】	28	29	30	元	2	実績と成果	経費	課題	評価
63	綱紀保持研修の実施 【学校教育課】	各学校において綱紀保持に係る研修を計画的に実施する。 ・各学校とも 5回/年						全小・中学校において、年間5回以上計画的に実施している。 また、年間4回の校長研究集会等において、綱紀保持の具体的な観点を示しつつ学校現場への研修実施の指示を行った。更に、県内で不祥事案が発生した場合には、速やかにその事案に係る注意喚起や職員研修を実施した。 ●全教職員に綱紀保持の意識を徹底できた。	千円 — （R1 —）	不祥事根絶に向け、効果的な綱紀保持研修を実施する必要がある。また、コロナ禍における研修の開催方法を検討する必要がある。	A （R1：A）
番号	主な取組	②キャリアステージに応じた研修の充実	実施期間					点検・評価			
	取組項目	取組内容【数値目標等】	28	29	30	元	2	実績と成果	経費	課題	評価
64	人材育成の研修会開催 【学校教育課】	フレッシュ合同研修（1～3年目教員）、時習館（ミドルリーダー）を実施する。 ・定期的に開催/年						フレッシュ合同研修会については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、初任者のみを対象に実施した。また、時習館においては、キャリアステージに応じた研修内容を提供した。 ●フレッシュ合同研修会では初任者が共に研修を行う貴重な機会を提供できた。時習館では、外部指導者の招聘により受講者の見識を広げることができた。	千円 60 （R1 —）	参加者にとって必要性が高く、有益な研修内容を提供する必要がある。	※B （R1：A）

番号	主な取組	③質の高い学習指導を実現するための研修の充実	実施期間					点検・評価			
			28	29	30	元	2	実績と成果	経費	課題	評価
65	取組項目	取組内容【数値目標等】									
	指導主事と教諭によるテーマを定めた研修会開催 【学校教育課】	「克己堂」を開催し、主体的、対話的で深い深い学びを視点とした授業づくりについて研究し、成果を発表する。 ・受講者による授業公開 6回/年						各校1回の授業提供により、公開授業を年13回開催した。市内教員が他校の「克己堂」に年1回参加する全員参加型授業研究会にした。また、「学力向上だより」を通じて授業の様子を紹介し、広く成果を還元した。 ●希望する授業研究に参加したことにより、授業改善への意識が高まり、教職員各々の資質向上につなげることができた。	千円 — (R1 —)	各校から授業提供を募るため、日程調整に工夫が必要である。	A (R1 : A)
	教科「外国語科」の導入に向けた教員の指導力向上 【学校教育課】	小学校教員を対象とした研修会を実施する。 ・定期的に開催/年						新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、参集形式ではなく、夏季休業中に希望する学校（6校）への個別訪問を実施した。 ●各校に応じた内容での実施を行うことができた。	— (R1 —)	研修会参加者が若手教員に偏っているため、ベテラン教員の参加を増やしていく必要がある。	B (R1 : B)

番号	主な取組	④子どもや保護者と向き合う時間を確保するための業務改善の推進	実施期間					点検・評価			
			28	29	30	元	2	実績と成果	経費	課題	評価
66	取組項目	取組内容【数値目標等】									
	業務改善対策会議の開催 【学校教育課】	管理職を対象とした業務改善対策会議を実施する。 ・1回/年						校長研究集会で業務改善の視点を示したり、各校の取組を紹介し合ったりして、業務改善を進めるための具体的な方策について確認した。 ●ペーパーレスや会議の精選等、各校で具体的方策を工夫し実践している。	千円 — (R1 —)	更に時間外業務時間の削減に向けた取組が必要である。	B (R1 : B)
	コミュニティ・スクール運営推進書への位置付け 【学校教育課】	コミュニティ・スクール運営推進書の重点目標に業務改善を位置付ける。 ・全ての学校で位置付け/年						全ての小・中学校のコミュニティ・スクール運営推進書の重点目標に業務改善を位置づけた。 ●学校運営協議会等の意見を反映することにより、外部の視点から業務改善を考えることができた。	千円 — (R1 —)	業務改善に向けた具体的な取組を工夫する必要がある。	B (R1 : B)

基本方針を支える環境整備

1 情報発信の充実

番号	主な取組	①市ホームページの充実	実施期間					点検・評価			
			28	29	30	元	2	実績と成果	経費	課題	評価
67	取組項目	取組内容【数値目標等】									
	更新状況の確認 【教育総務課】	教育委員会所管のホームページの更新状況を確認し、市民に分かりやすいホームページの充実を図る。						ホームページの更新は、教育委員会各箇所で行っている。 教育総務課 25回（R1：11回）、学校教育課 7回（R1：7回）、生涯学習・スポーツ推進課 17回（R1：11回）、文化財室 5回（R1：1回）、図書館 95回（R1：110回）、サンビームやない 12回（R	千円 — (R1 —)	各箇所により更新回数にばらつきがある。定期的な更新を図っていく必要がある。	C (R1 : C)

								1：12回）、学校給食センター17回（R1：15回）、中央公民館8回（R1：5回）、日積公民館2回（R1：2回）、伊陸公民館7回（R1：4回）、新庄公民館31回（R1：35回）、余田公民館0回（R1：7回）、伊保庄公民館13回（R1：14回）、阿月公民館2回（R1：2回）、平郡東公民館14回（R1：12回）、平郡西公民館0回（R1：12回）、大畠公民館3回（R1：16回） ●随時更新により、市民への情報提供が図られた。			
	興味・関心のあるホームページの開設 【学校教育課】	スクール・コミュニティ、学力、各学校の行事等、市民の関心が高い項目の充実を図る。 ・更新頻度 2回/学期						市民の関心が高い項目についてホームページで情報を発信している。 ●学校理解の一助となった。	千円 — (R1 —)	ホームページを活用した情報発信を更に進めていく必要がある。	B (R1：B)

番号	主な取組	②各小・中学校による情報発信の充実	実施期間					点検・評価			
	取組項目	取組内容【数値目標等】	28	29	30	元	2	実績と成果	経費	課題	評価
68	学校へのサポート 【学校教育課】	全ての学校でホームページによる情報発信ができる体制づくりを支援する。 ・指導主事による学校訪問 1回/年						全ての学校で、ホームページによる情報発信ができています。 ●市教委に気軽に相談する体制が定着してきた。	千円 — (R1 —)	全ての学校が月1回以上更新できるよう働きかける必要がある。	B (R1：B)

番号	主な取組	③SNS等の多様なメディアを用いた情報発信の検討	実施期間					点検・評価			
	取組項目	取組内容【数値目標等】	28	29	30	元	2	実績と成果	経費	課題	評価
69	SNS等を利用した情報発信の検討 【教育総務課】	市公式フェイスブックの利用を図り効果的な情報発信に努める。						教育委員会独自のフェイスブックは作成していないが、市公式フェイスブックやツイッターから情報提供は可能であるため、教育委員会に関する情報をフェイスブックに掲載した。 ●教育委員会に関する情報を提供できた。	千円 — (R1 —)	情報発信の方法として、活用できるものから取り組む必要がある。	C (R1：C)
	学校行事等のお知らせ 【学校教育課】	学校行事（参観日、運動会等）の情報をメールで流す。 ・日程、予定等を状況に応じて流す						安全安心メールシステムを用い、各校の利用規程により情報提供を行っている。 ●天候不良による行事の延期及び中止に関する連絡等、保護者が欲する情報を即座に発信・提供することができるようになった。	千円 — (R1 —)	効果的な活用を続けていく必要がある。	A (R1：A)

2 安全で快適な学びの環境づくり

番号	主な取組	①適正規模・適正配置計画	実施期間					点検・評価			
	取組項目	取組内容【数値目標等】	28	29	30	元	2	実績と成果	経費	課題	評価
70	新たな柳井市立小中学校整備計画の策定 【教育総務課】	新たな柳井市立小中学校整備計画の見直しはしないが、将来の適正規模・適正配置の協議を行う。						柳井市教育振興基本計画（第2期）の見直し中で、適正規模・適正配置に係る基本的な方向性を協議した。 ●適正規模・適正配置の方向性を協議することができた。	千円 — (R1 15,282)	地域の実態を把握する必要がある。	B (R1：A)

番号	主な取組	②学校施設の安全確保及び機能充実	実施期間					点検・評価			
	取組項目	取組内容【数値目標等】	28	29	30	元	2	実績と成果	経費	課題	評価
71	学校施設の耐震化 【教育総務課】	校舎の耐震化は令和元年度末で 100% となった。今後も校舎の外壁や体育館の非構造部材の耐震化に取り組む。 ・柳東小学校北校舎非構造部材改修工事						柳東小学校北校舎非構造部材改修工事を実施した。 伊陸小学校管理特別教室は、学校と公民館が一体となった複合教育施設として整備した。 令和2年度末 耐震化率 100% (R1 100%) 柳東小学校北校舎非構造部材改修工事 37,087 千円 伊陸小学校改築工事 331,372 千円 ●伊陸小学校管理特別教室及び柳東小学校北校舎非構造部材改修工事により、児童生徒の安全が確保された。	千円 368,459 (R1 88,418)	屋内運動場非構造部材耐震化の未施工施設が3施設ある。(平郡東へき地集会所、伊陸小体育館、大畠中武道場)	A (R1:A)
	学校施設の改修 【教育総務課】	各小中学校の空調設備の設置やトイレの洋式化など、学校施設の機能充実を図るための改修を計画的に実施する。						トイレの洋式化は、老朽化した設備も併せて改修した。(小学校5校) 事業費: 134,721 千円 感染症対策として、トイレ手洗器の自動水栓化を実施した。 (小学校9校) 事業費: 5,629 千円 ●トイレの洋式化及び手洗器の自動水栓化により、教育環境の改善が図られた。	千円 140,350 (R1 215,436)	トイレ洋式化の未整備中学校は、今後、計画的に取り組む必要がある。	A (R1:A)

3 図書、教材、教具の整備充実

番号	主な取組	①学校図書の充実	実施期間					点検・評価			
	取組項目	取組内容【数値目標等】	28	29	30	元	2	実績と成果	経費	課題	評価
72	学校図書館図書標準の向上 【教育総務課】	学校図書館充実のため、学校図書館図書標準の達成率向上をめざすとともに、蔵書の質の向上を図る。 ・平成25年度末9校→12校以上						学校図書標準の達成は、市内13校中7校となり、数値目標には届いていないが、未達成校の6校のうち2校は、達成率に近い実績となった。(R1年 15校中7校) (%: 学校図書標準達成率)(冊: 1人当たり冊数) 日積小 100.3%、163冊 (R1: 74.2%、107冊) 柳井小 138.5%、28冊 (R1: 132.4%、26冊) 柳東小 97.4%、34冊 (R1: 83.8%、30冊) 柳北小 84.3%、79冊 (R1: 80.3%、73冊) 新庄小 111.7%、34冊 (R1: 105.6%、32冊) 余田小 69.5%、56冊 (R1: 64.6%、55冊) 伊陸小 97.1%、96冊 (R1: 69.0%、83冊) 柳井南小 45.7%、48冊 (R1: 48.3%、45冊) 小田小 115.2%、98冊 (R1: 109.8%、93冊) 大畠小 128.6%、83冊 (R1: 133.9% 88冊) 柳井中 131.4%、35冊 (R1: 132.4% 35冊) 柳井西中 113.5%、69冊 (R1: 105.8% 70冊) 大畠中 44.2%、93冊 (R1: 38.8% 68冊) 小学校図書購入費: 3,338 千円	千円 5,238 (R1 5,507)	古い図書については廃棄する必要があるため、急速な達成率の向上は難しいという課題がある。	C (R1:C)

								中学校図書購入費：1,900 千円 ●古い図書は廃棄を進め、学校図書の更新は図られた。 ※ 学校図書標準達成率は文科省の基準による			
	学校図書館の整備 （再掲：番号 43） 【学校教育課】	学校司書が全ての小・中学校図書館の 適正な配置・本の整理を行う。 ・令和 2 年度までに完了						配置対象校を市内の全小学校とし、学校司書を 5 人配置した。 ●児童生徒の読書活動の推進と読書環境整備に寄与した。	千円 2, 4 1 7 (R1 2,081)	全小・中学校への配置を 進める必要がある。	B (R1 : B)

番号	主な取組	② 教材、教具の整備	実施期間					点検・評価			
	取組項目	取組内容【数値目標等】	28	29	30	元	2	実績と成果	経費	課題	評価
73	ICT 環境の整備 【教育総務課】	GIGA スクール構想に基づく高速大容量の校内通信ネットワークの整備及び 1 人 1 台端末の整備を行う。 ・令和 2 年度に校内通信ネットワーク及び小 5～小 6、中 1 へ端末を整備する。						全小中学校に GIGA スクール構想に基づく、高速大容量の校内通信ネットワークを整備するとともに、全児童生徒への 1 人 1 台端末及び周辺機器等の整備を行った。 校内通信ネットワークの構築費：96,921 千円 タブレット端末及び周辺機器等の整備費：179,340 千円 ●GIGA スクール構想の実現に向けて、ICT 環境の整備が図られた。	千円 2 7 6, 2 6 1 (R1 1,161)	整備した ICT 環境を効果的に活用した教育に取り組む必要がある。	A (R1 : B)
	学校教材・備品の計画的な整備 【教育総務課】	学校教育環境の充実を図るため、各小中学校に必要な教材・備品を計画的に整備する。						一般管理・教材・理科設備備品について、各学校の要望に沿った整備を行った。新型コロナウイルス感染症対策として、必要な備品を整備した。 ※経費には、GIGA スクール関連も含む ●必要な教材及び備品が整備され、各学校の教育環境及び感染症対策の向上が図られた。	千円 9, 4 2 5 (R1 5,874)	今後も、小中学校に必要な教材・備品を計画的に整備する必要がある。	B (R1 : B)

※実績と成果欄の●以下は、成果を記入している。経費欄の「－」は、予算執行を伴わないソフト事業又は実績がない事業。 評価欄の「－」は、一時的に事業が実施できなかった事業、事業が始まっておらず評価できない事業又は事業が終了し評価できない事業。

注釈

- ※ 1 地域協育ネット：幼児期から中学校卒業程度までの子どもたちの育ちや学びを、地域総がかりで見守り支援するための、概ね中学校区を一まとまりとしたネットワークである。山口県教育委員会と連携して推進している。
- ※ 2 地域連携教育エリアアドバイザー：「やまぐち型地域連携教育」の取組を推進する市町教育委員会等を支援するため、山口県教育委員会が委嘱している。コミュニティ・スクールを核とした地域連携教育の充実に向けた取組への助言・支援等を行っている。
- ※ 3 スクール・コミュニティ総合コーディネーター：本市のスクール・コミュニティづくりを推進するため配置している。特に、学校運営協議会の活性化に向けた支援や情報発信等を行っている。